

授 業 科 目 名	音楽と文化	教 員 名	小澤 真美子	免許・資格 との 関係	小学校教諭	
授 業 形 態	講義	担当形態	単独		幼稚園教諭	
科 目 番 号	JIN106	配当年次	1年前期	卒 業 要 件	保育士	選択
単 位 数	2単位				こども音楽療育士	選択
科 目					小幼コース	選択
施行規則に 定める科目区 分又は事項等					幼保コース	選択必修
一 般 目 標	「音楽と文化」では、音楽鑑賞を通して幅広い教養と豊かな人間性を身に付けることを目標とする。各時代の代表的な音楽作品を鑑賞し、作品や作曲家の時代背景を学ぶ。					
到 達 目 標	(1) 音楽と文化の関連を理解する。 (2) 鑑賞のマナーを理解する。 (3) 各時代の音楽の特徴を理解する。 (4) 作曲家の人間像と作品の関連を理解する。 (5) 音楽の各ジャンルの特徴を理解する。					
ディプロマ・ ポリシーとの 関 係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「1.社会・教育等に関連する国内外の様々な問題について、現状・課題を認識し、その解決策を考察できる能力を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 の 概 要	音楽、演劇、美術等の芸術は、人間が人生をよりよくするために存在する大切なものである。この授業では、音楽に関する幅広い知識や教養を深めるため、「知っておきたいクラシック音楽」の背景やその当時の文化との関わりを学んで鑑賞することにより、作品を聴き味わう。授業形態は講義とする。また、アクティブラーニングとして、調査学習を行う。					
SDGsとの関連 (注) SDGsとの 関連がない場合 は枠を作らな くして結構です。	本講義は国連が目指すSDGsと関連した内容を含む。SDGsの目標のうち「目標4 質の高い教育をみんなに」との関連として、「すべての人々が男女の区別なく、手の届く質の高い教育技術」のために様々な音楽の特性を講義から学び音楽と文化の意義を理解し、子どもたちに質の高い音楽教育を指導できる人材を育成することや「文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、必要な知識技能を身に付け、教育者としての知識と教養を高める」ことが期待される。 さらに「目標10 平和と公正を全ての人に」との関連においては、多様な文化の音楽の理解を深めることで、ノンバーバルなコミュニケーションとしての音楽のもつ平和や公正さのメッセージ性を感じ取る感性を高めるとともに、指導者としての資質を高めることを目指す。					
授 業 計 画	第1回：オリエンテーション 音楽と文化の関連に興味を持つ。鑑賞のマナーを理解する。(目標(1),(2),(3)) 第2回：古典派の音楽(1) 文化の担い手が王侯貴族から市民階級へと変わろうとしていた時代のウィーン古典派の作曲家について知る。(目標(3)(5)) 第3回：古典派の音楽(2) モーツァルトのジグシュピール《魔笛》を題材にオペラについて学ぶ。また、映画「アマデウス」の抜粋を鑑賞し、当時の生活文化や音楽家の立場について理解する。(目標(3)(4)) 第4回：古典派の音楽(3) ソナタ形式とウィーン古典派を頂点に導いたベートーヴェンについて知り、《交響曲第5番》の冒頭、および、《交響曲第9番》の初演にまつわる物語を鑑賞する。(目標(3)(5)) 第5回：ロマン派の音楽(1) ロマン派時代の特色について知り、シューベルトの音楽から《歌曲「魔王」》等を鑑賞し、彼がドイツ・リート確立者であることを理解する。(目標(3)(4)(5)) 第6回：ロマン派の音楽(2) ロマン派のピアノの発展について知り、ピアノの詩人：ショパンの音楽から《幻想即興曲》等を鑑賞する。(目標(3)(4)(5))					

	第7回：ロマン派の音楽（3） ショパンを題材にした映画から抜粋を鑑賞し、ショパン作品はほぼすべてがピアノ曲であり、祖国愛にあふれていることや時代に影響を受けているあることを知る。（目標(3)(4)(5)） 第8回：ロマン派の音楽（4） 作曲家シューマンのマスメディアとしての役割などについて学び、その音楽を鑑賞する。また、ブラームスについても学ぶ。（目標(3)(4)(5)） 第9回：ロマン派の音楽（5）/バロック時代の音楽 ロマン派の作曲家メンデルスゾーンと、彼によって再認識されたバロック時代の作曲家、J.S.バッハについて学ぶ。（目標(3),(4),(5)） 第10回：ロマン派の音楽（6） ピアノの魔術師、リストの音楽から《「ラ・カンパネラ」》を鑑賞し、彼がヴィルトゥオーゾとしての名声を伝説的にまで高めたことを知る。また、楽劇王ワーグナーについても学ぶ。（目標(3),(4),(5)） 第11回：ロマン派の音楽（7） シュトラウスⅡ世について学ぶ。また、イタリアオペラの作曲家、ヴェルディの音楽から《歌劇「椿姫」》の抜粋を鑑賞する。（目標(3),(4),(5)） 第12回：ロマン派の音楽（8） イタリアオペラの作曲家、プッチーニの音楽から《歌劇「蝶々夫人」》抜粋を鑑賞する。（目標(3),(4),(5)） 第13回：ロマン派の音楽（9） フランスオペラの作曲家、ビゼーの音楽から《歌劇「カルメン」》抜粋を鑑賞する。（目標(3),(4),(5)） 第14回：20世紀の音楽（1） モスクワ楽派について学び、チャイコフスキーの音楽から3大バレエ音楽の一つである、《バレエ音楽「白鳥の湖」》抜粋を鑑賞する。（目標(3),(4),(5)） 第15回：20世紀の音楽（2） ドビュッシー、ラヴェルの音楽を鑑賞し、それまでの時代の作風との違いを理解する。また、20世紀の音楽について、ガーシュウィン、ケージ等の作曲技法を学び、鑑賞する。（目標(3),(4),(5)） 第16回：定期試験
学生に対する評価	定期試験90%・授業態度10% なお、提出物へのフィードバックについては、授業において全体に口頭で行う。
時間外の学習について	（事前・事後学習として週4時間以上行うこと） 事前学習：音楽史年表を見て、各時代の作曲家について予習する。 事後学習：講義内容について整理し、課題がある場合にはそれに取り組む。
テキスト	テキストは使用しないが、この授業専用に2穴のA4ファイルを準備し、毎回持参する。（定期試験時はこのA4ファイルにファイリングしたプリントのみ、持ち込み可）
参考書・参考資料等	『クラシックの音楽の世界』田村和紀夫 著 新星出版社
担当者からのメッセージ	難しい内容もありますので、新しい知識を得る喜びを感じながら受講できる学生に、履修していただきたいと思います。
オフィスアワー	授業の前後の時間（メール等でアポイントを取る可）